

平成 22 年 4 月 28 日現在

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2007～2009

課題番号：19791665

研究課題名 (和文) 新卒看護職の組織適応に関する研究

研究課題名 (英文) A study of organizational socialization for novice nurses

研究代表者

藤井 宏子 (FUJII HIROKO)

県立広島大学・助産学専攻科・講師

研究者番号：80403781

研究成果の概要 (和文) : 看護職の需給関係の均衡および看護の質向上に寄与することを目的とし、新卒看護職者の組織適応に影響を及ぼす要因に関する検討を行った。分析の結果、就業後の組織への適応と職業的適応の程度には、主に新卒看護職者が学生時代までに培われた職業的適応の程度と、新卒看護職者の社会的スキルが関係していることが見出された。統計上、新卒看護職者の組織適応に組織要因および組織外要因は影響していないことが示唆された。

研究成果の概要 (英文) : The purpose of this study was to aim affective factors in organizational socialization of newly-graduated nurses. As a result of having investigated the adaptation of newly-graduated nursing staff to their occupations and organizations through the utilization of hierarchical multiple regression analysis, what was discovered that, adapting to organizations following the commencement of employment is related to the degree of occupational development cultivated mainly during the period in which newly-graduated nursing staff were students and their level of social skills. Only regarding adaptation concerning the organization as a whole was there a marginal significance in whether or not they had practical experience at the facility in question, although regarding the organizational climate, which is an organizational factor, as well as the degree of expertise, which is a factor extrinsic to the organization, no relationship was demonstrated with the adaptation of newly-graduated nursing staff to organizations.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	600,000	180,000	780,000
2008 年度	600,000	180,000	780,000
2009 年度	200,000	60,000	260,000
総計	1,400,000	420,000	1,820,000

研究分野：基礎看護学

科研費の分科・細目：看護管理

キーワード：新卒看護職者，組織適応，社会的スキル，職業への適応，専門職性，組織風土

1. 研究開始当初の背景

周知の通り，病院に勤務する看護職員の数は常に不足した状態にある。また近年，他の医療職と同様，看護職も高い質が求められていることも事実である。

第6次看護職員需給見通しでは，新卒看護職者と潜在看護職者が需要を満たす供給源として見込まれているが，新卒看護職者は潜在看護職者とは異なり，看護職としての実践経験がほとんどないため，即実践力とはなり難い。看護職は有資格者であるが，先行研究によると，看護職者が一定の実践能力を培うためには，3年間から6年間，継続して同一の職場に勤務することが必要であるとされている。しかしながら，近年の新卒看護職者の早期離職は約9%であることや，離職に至らないまでも，彼らの組織適応には，多くの困難や障壁が生じていることが報告されている。先に述べた看護職の実践能力の観点から考えても，新卒看護職者が臨地で活躍できる人材となるためには，組織に適応し，継続して勤務することが重要であるといえよう。

これまで，新卒看護職者の職業生活への適応に関する研究は，実践能力やリアリティショック，職業意識の成熟，志向性，職業選択等の観点から行われてきた。しかし，これらは所与のものであり，就業後の新卒看護職者には変容しがたい要因，あるいは回避できない事象であるため，新卒看護職者の組織適応について，異なる観点から検討される必要があると考えられる。

また先行研究によると，新卒看護職者個人の要因とは関係なく，組織要因が関与している離職もあることが示唆されていることか

ら，新卒看護職者の組織適応の検討には個人要因のみではなく，組織側の要因を加えた検討が必要であると考えられる。

さらに，看護職にとって職業的発達や組織適応をどのように測定するのかについて，未だ明確にされておらず，測定尺度を開発・検討し，看護職の職業・組織への適応について示唆を得ていく必要性もあると考えられる。

以上の社会的・学問的背景から，新卒看護職者の組織適応について，個人要因と組織要因双方の観点から検討することとした。

2. 研究の目的

- (1) 新卒看護職者の組織適応を促すことによって，看護職員の需給関係や質向上に寄与すること。
- (2) 個人の組織適応に影響を及ぼす組織要因および組織要因について示唆を得ること。
- (3) 看護職者の職業的発達測定尺度を検討すること。
- (4) 看護職の組織適応を適切に測定する尺度について検討すること。

3. 研究の方法

組織適応について，社会化理論を基に組織要因，組織外要因，個人要因を検討した。その後，各要因の示す内容に対応する測定尺度と分析モデルを設定し，実証研究を行った。なお，先行研究をレビューした結果，適切な測定尺度が見当たらなかった看護職者の職業的発達測定尺度と専門職性測定尺度については尺度開発を行った。

調査対象は2009年度に病院組織に就職し

た新卒看護職者とし、調査協力が得られた141名に調査票を配布した。記入漏れのない調査票を有効回答票とした結果、90名が本研究の分析対象となった。なお、組織要因および組織外要因については、新卒看護職者が配置されている組織の成員から回答を得て、新卒看護職者の調査票に対応させた。

調査は、就業後間もない時点で第1回調査を行い、これを組織適応の状態を基礎得点とした。第2回調査は就業後6ヶ月後に行い、これを組織適応の結果とした。

倫理的配慮として、看護部の長に調査の主旨について説明し、調査への参加は任意であること、病院名・個人名ともに特定されない状態でデータ化されること、データ保存方法と破棄、学会報告の可能性について説明した上で調査協力を得た。調査対象者個人に対しても、上記と同じ説明を書面で行い、回答を以って同意とした。

分析は、組織適応の尺度得点を従属変数、基礎看護教育で培われた職業的発達、社会的スキルの程度、新卒看護職者が所属する集団の組織風土、専門職性を独立変数とした階層的重回帰分析を用いて検討した。

4. 研究成果

新卒看護職者の組織および職業に対する適応には、看護基礎教育の結果や社会的スキルの高さなどの個人要因が関係していることが見出された。その一方で、組織要因および組織外要因については、統計上、新卒看護職者の組織適応に影響を及ぼしていないことが示唆された。これらの結果から、新卒看護職者を組織に適応させ、円滑な職業生活を継続していくためには、基礎看護教育や看護職員採用試験が重要であると推測される。

また、看護職としての職業的発達測定尺度、専門職性測定尺度を開発したことによって、これらの事象を測定可能にしたことも、本研

究の成果であると考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 藤井宏子・戸梶亜紀彦 (2008). 助産学を専攻する学生の職業意識の成熟に関する検討—新卒看護職の離職を背景に—, 日本医療・病院管理学会, 45 (3), 15-24.
- ② 藤井宏子・戸梶亜紀彦 (2010). 新卒看護職者の職業生活への適応に関する研究レビュー, マネジメント研究, 10, 67-74.
- ③ 藤井宏子 (2010). 看護職者の職業的社会化測定尺度開発の試み, 広島大学マネジメント学会 Discussion Paper Series.
- ④ 藤井宏子 (2010). 専門職性測定尺度開発の試み, 広島大学マネジメント学会 Discussion Paper Series.

[学会発表] (計3件)

- ① 藤井宏子・下見千恵・戸梶亜紀彦 (2008). 20代の看護職の離職理由に関する検討, 第28回日本看護科学学会学術集会, 福岡国際会議場 (福岡市).
- ② Fujii, H., Tokaji, A. (2008). The relationship between occupational awareness and level of maturity as causes for the development of midwives, and occupational preferences, ICM Congress in Glasgow.
- ③ 藤井宏子・下見千恵 (2009). 対象者からみた周産期ケアの認識, 日本母性衛生学会第50回日本母性衛生学会総会, パシフィコ横浜 (横浜市)

[図書] (計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤井 宏子 (FUJII HIROKO)
県立広島大学・保健福祉学部 講師
研究者番号：80403781

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：